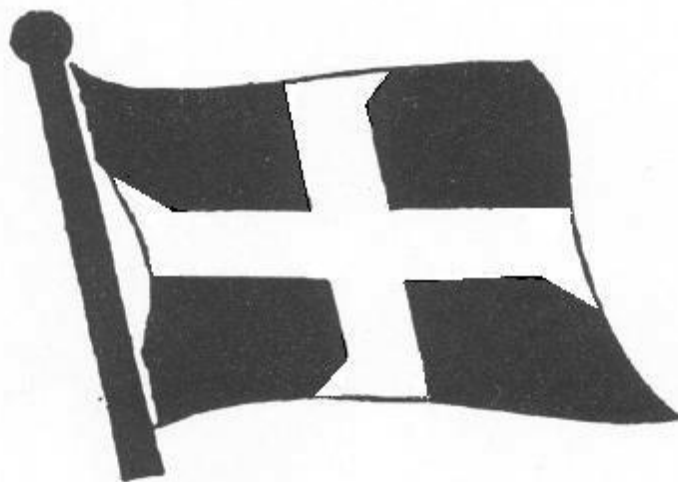


蒼穹 NEWS

NO.2

関西インカレ総括号

令和5(2023)年 6月 5日発行



—目次—

- ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
- ②関西インカレ結果
- ③関西インカレ各競技総括
- ④その他ご報告

①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

《主将挨拶》

先日行われました関西 IC にて、男子は 47 点で総合 8 位、女子は京都大・京都女子大合計で 13 点となり、合計 60 点でした。昨冬から男女合計 65 点を目標として掲げてきた中で、その目標に届かなかったことはとても悔しく思います。

一方で、その内容とチームの雰囲気に関しては、申し分ない対校戦だったと思います。

男子走高跳では山中(3)が貫禄の大会新で 2 連覇を達成し、女子やり投でも篠田(3)が自身の京大記録を更に伸ばして 2 連覇を達成した他、男子走幅跳では高橋(2)が得点圏外から優勝を果たしました。また、男子 3000m 障害では柴田(M2)と足立(M2)が研究や学会で忙しい中、それぞれ 2 位、3 位入賞を、女子円盤投では中芝(3)が練習の成果を最大限発揮して 4 位入賞を、男子 400mH では高橋(2)が多種目出場にも関わらず京大新で 4 位入賞を、そして男子 1600mR では益田(3)-高橋(2)-岩崎(4)-岩本(3)が 2020 年以來の 6 位入賞を果たしました。更に、得点にこそ届かなかったものの、女子主将の三好(4)が女子 100m、200m で、平岡(3)が女子 100mH で、森尾(4)-齋藤(2)-平岡(3)-三好(4)が女子 400mR でそれぞれ京大新記録を樹立し、チームに勢いを与えました。その他の競技でも、自己新記録や大学新記録も多かった他、積極果敢に格上の集団について行ったり、攻めた競技を展開したりして、自分の殻を破ろうとする姿が多く見られました。出場した全員が己の限界に挑み戦い抜いたことを誇りに思います。

チームの雰囲気としても、4 年ぶりに集団応援が復活した中で、部員全員がチーム一丸となって、この関西インカレを戦うことができました。特に応援係は 4 日間、声を枯らしながら応援を率先し、選手の背中を押し続けてくれました。1 人の競技を 100 人以上が応援し、背中を押すその精神はこの部の財産だと思います。

明るい材料が多かった中で、関西インカレで悔しい思いをした選手も少なくありません。関西インカレ出場を目指して、叶わずに涙を呑んだ選手も少なくありません。彼ら、彼女らは間違いなく今後のこのチームの伸び代です。今年はこの後も伊勢予選、七大戦、東大戦と重要な対校戦が続いていきます。今回活躍した選手も悔しい思いをした選手も一回り成長して、次こそは目標を達成できるように研鑽を積んで参ります。

最後になりましたが、大会期間中、遠方から多くの蒼穹会の方に足を運んで、応援を賜り、誠にありがとうございました。今後とも変わらぬご支援、ご声援を何卒よろしく願い申し上げます。

京都大学陸上競技部主将 齋藤 啓

《女子主将挨拶》

関西インカレが終わり、男女総合 65 点という目標を達成することは出来ませんでした、事前ランキングを大きく返し、厳しい状況を乗り越えながらも 60 点、男子は一部残留を果たしました。思うようにいかないこともあり、悔しい思いもたくさんしましたが、難しい展開を経験することで、なぜ一部残留にこだわるのかということ部員全体が感じることができたと思います。

女子については、やり投に出場した篠田(3)が 56m57 で 2 連覇を果たし、中芝(京女 2)も円盤投で 4 位入賞し、今年も大舞台で活躍してくれました。また、例年よりも多くの女子選手が出場し、さらに今大会だけで京大新記録が 6 回更新されるなど、女子も関西インカレを大きく盛り上げることができました。出た人も出なかった人も、これまでの過程や試合当日皆で頑張って、今後につながるような経験をしてくれたことと思います。現部員の成長、そして多くの新入生が入ってきてくれたことで、女子チームの勢いは増す一方です。七大戦優勝を達成するために、切磋琢磨し、さらにもう一段階全体の水準を上げて、より高みを目指していきます。

蒼穹会の皆様には、日頃より多大なるご声援とご支援をいただき、誠にありがとうございます。引き続き応援のほどよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 三好 紗椰

《監督挨拶》

年間の最大目標である関西インカレが終了いたしました。京大・京女大で男女総合 65 点の獲得を目標としていましたが、結果は総合 60 点となりました。

男子は最終日午前まで残留争いをするなど苦しい戦いを強いられましたが最終的には 47 点で 8 位を獲得、女子は 5 種目での京大新が象徴するように、全日程を通して近年の勢いを見せつける試合運びとなりました。今年の関西インカレは、予想外の不振も健闘もあり、まさに対校戦らしい試合でしたが、総じて事前ランキングから大きく点数を伸ばし今のチームが取れる最大点を取ることができた良い試合であったと言えます。

しかしながら我々は目標を達成できなかったという事実から決して目を逸らしてはなりません。今年度残る対校戦では目標を達成できるよう、成長にばかり目を向けるのではなく、普段から成長の先の結果にこだわる必要性があると感じています。男子マイルの得点に象徴されるようなチーム力の底上げという明るい未来の片鱗が見られたからこそ、そのチャ

ンスを全力で掴みにいかなければなりません。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様のご声援があって我々は関西インカレを5日間戦い抜くことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。引き続き更なる高みを目指し精進して参りますので、変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願い申し上げます

京都大学陸上競技部監督 仲村 快太

② 関西インカレ結果

1,男子一部総合得点

第1位	関西大学	164.5
第2位	立命館大学	134
第3位	関西学院大学	88.5
第4位	京都産業大学	88
第5位	びわこ成蹊スポーツ大学	85
第6位	大阪体育大学	73
第7位	同志社大学	73
第8位	京都大学	47
第9位	近畿大学	42
第10位	大阪大学	36
第11位	龍谷大学	20
第12位	天理大学	14

2,男子一部トラックの部得点

第1位	関西大学	126
第2位	立命館大学	94
第3位	関西学院大学	45
第10位	京都大学	21

3, 男子一部フィールドの部得点

第1位	びわスポ大	51
第2位	大阪体育大学	49
第3位	京都産業大学	38
第7位	京都大学	21

4,男子一部混成の部得点

第1位	びわスポ大	12
第2位	立命館大学	9
第3位	同志社大学	8

5,男子二部総合得点

第1位	大阪教育大学	126
第2位	神戸大学	118
第3位	摂南大学	110.5

6,男子二部トラックの部得点

第1位	神戸大学	87
第2位	大阪教育大学	70
第3位	大阪国際大学	56

7,男子二部フィールドの部得点

第1位	明治国際医療大学	72
第2位	摂南大学	40.5
第3位	大阪教育大学	35

8,男子二部混成の部得点

第1位	大阪教育大学	21
第2位	摂南大学	12
第3位	和歌山大学	6

9, 女子総合得点

第1位	立命館大学	139
第2位	園田学園女子大学	86
第3位	甲南大学	63
第2 1位	京都大学	8
第2 4位	京都女子大学	5

10,女子トラックの部得点

第1位	立命館大学	94
第2位	園田学園女子大学	61
第3位	関西大学	59

11,女子フィールドの部得点

第1位	大阪体育大学	55
第2位	立命館大学	45
第3位	武庫川女子大学	29.5
第11位	京都大学	8
第15位	京都女子大学	5

②関西インカレ各競技総括

第100回関西学生陸上競技対校選手権大会
(T&Fの部)
2023年5月24日-27日
ヤンマースタジアム長居

～短距離～

男子100m

予選(4組3着+4)

3組 高田雄平(3) 10.90(-1.7) 4着

予選3組には高田(3)が出場した。わずかにブロックで浮いたものの、持ち前の力強いプッシュとしなやかな動きで自分のレースをし、組4着でゴール。風に嫌われ、10"90(-1.7)の結果となり、惜しくも予選敗退となった。通過ラインの10"85は+2.8の風での記録である。2023春シーズンは風や天候に恵まれないイメージがあるが、それでも短距離をはじめとするチームを確実に勢いづけてきた。さらに練習を積んでどんな条件下でも勝ち切れる強さを獲得するとともに、いつか必ず来る良コンディションの日に、好走でチーム全体を沸かせることに期待する。(宮園)

男子4×100mリレー

予選(2組3着+2)

1組 京都大 40.59 6着

- (1) 藤田雄大(M2)
- (2) 高田雄平(3)
- (3) 高橋昂生(2)
- (4) 石原一真(2)

男子4×100mリレーには1走藤田(M2)、2走高田(3)、3走高橋(2)、4走石原(2)が出場した。持ちタイムがやや劣る中で決勝進出を目指した。各選手がベストを尽くし、バトンも問題なく渡ったが、他チームもミスなく繋いだため、番狂わせはなかった。とはいえ、全カレ標準も見えるタイムであるので、バトンパス等の更なる上積みを期待したい。(田淵)

男子110mH

予選(3組2着+2)

3組 酒井良佑(M2) 14.84(+1.6) 7着

110mH予選には酒井(M2)が出場した。スタートの数歩でやや崩れてしまい、そこからの修正が難しいものであったが、最後までなんとかまとめきり、自己新記録の14"84を出した。目標としていた西カレA標準(14"80)には届かなかったものの、ハードルパートや関カレT&Fの部1日目の京大陸上部にいい追い風をもたらしたことは確実である。(岩崎)

男子400mH

予選(3組2着+2)

1組 高橋昂生(2) 52.13 3着q

男子 400mH 予選には高橋(2)が出場した。外レーンの選手が積極的にレースを進める中、冷静に自分のペースを保って4番手で200mを通過。水濠付近から一気に走り切り替えて1人をおかわし3着でゴール。タイムにより決勝進出を決めた。

(新庄)

決勝

4着 高橋昂生(2) 51.11

男子 400mH 決勝には高橋(2)が出場した。予選よりも積極的に前半を走るものの、立命館大中村、同志社大岩堀らを中心にハイペースでレースが進む。7台目付近から後半型の立命館栗林、細野がペースを上げる中、高橋もスピードを落とすことなく前との差を詰める。最後のホームストレートでも走りを崩すことなく、2人をおかわして4着でゴール。伸び悩んでいたPBを1秒以上大幅に更新する会心の走りであった。この種目でランキングを覆して5点を獲得し、京大に大きな勢いをつけた。

(新庄)



(見事な走りを魅せた京大エース高橋)

男子 4 × 400m リレー

予選(2組3着+2)

2組 京都大 3:14.98 4着 q

- (1) 益田椋多(3)
- (2) 高橋昂生(2)
- (3) 岩崎光起(4)
- (4) 岩本翔太(3)

男子 4 × 400mR には益田(3)、高橋(2)、岩崎(4)、岩本(3)が出場した。

3日目予選2組目、1走益田は持ち前の安定した走りで4位付近でバトンを渡した。2走高橋は序盤こそゆったり入ったものの終盤先頭に追いつく快走を見せた。続く3走岩崎も先頭に喰らい付き4位で通過。4走岩本も粘りの走りでなんとか+2に滑り込み決勝進出を決めた。(橋本)

決勝 6着 京都大 3:12.79

- (1) 益田椋多(3)
- (2) 高橋昂生(2)
- (3) 岩崎光起(4)
- (4) 岩本翔太(3)

最終日決勝では、1走から強豪校の本気の走りに序盤引き離されてしまうが、高橋の追い上げにより前が見える位置まで戻ることができた。その後もなんとかその位置をキープし、最後には6位争いを競り勝ち3'12"79の好タイムで関西インカレ最終種目を走り切った。(橋本)



(好走を見せたマイルメンバー (左から、益田 (3)、高橋 (2)、岩崎 (4)、岩本 (3) の順))

女子 100m

予選 (6組 3着 + 4)

6組 三好紗椰 (4) 12.58(-1.0) 5着

予選 6組には三好(4)が出場した。良いクリアランスを決め、加速区間でトップ選手のスピードに離されるも、焦らず自分の走りで食らいつきゴール。遅かったという本人の感覚に反し、記録は 12"58(-1.0) の自己新記録、京大新記録、関カレ A 標準突破の好記録であった。準決勝通過ラインとなった 12"52 の記録は +1.2 の風で出ており、僅差での予選落ちとなった。

準決勝進出はならなかったものの、女子主将として言葉で部員を鼓舞し続けてきたことに加え、結果によってもチームを鼓舞することが出来た。今後の試合でのさらなる飛躍に期待できる。(宮園)

女子 200m

予選 (6組 3着 + 4)

4組 三好紗椰 (4) 25.83(-0.1) 3着 Q

3組 齋藤虹香 (2) 27.06(+0.2) 8着

女子 200m 予選には齋藤(2)、三好(4)が出場した。齋藤は 400m や 4×100mR と多種目の出場で疲労がたまる中、前半から積極的なレースをした。三好は後半失速しながらも京大記録であった自身の PB を更新し、目標に掲げていた準決勝に進出した。(石原一)

準決勝 (3組 2着 + 2)

2組 三好紗椰 (4) 25.67(-0.2) 5着

女子 200m 準決勝には三好(4)が出場した。この日 2 本目の 200m ということもあり、予選からの疲労が感じられる前半であったが後半は 1 つ内側のレーンの選手に食らいつき、予選で出した PB を再び更新した。(石原一)



(200m で京大記録を塗り替えた三好)

女子 400m

予選 (5組 2着 + 6)

2組 齋藤虹香 (2) 1:02.00 8着

女子 400m 予選には齋藤(2)が出場した。普段は短パートで練習をしているが、今回の 400m に向けて積極的に 300m などに取り組んできた。外側の選手に引っ張られ、前半は積極的なレースを見せる。後半は苦しい走りとなったが、それでもシーズンベストとなる 62.00 でまとめた。これからも女子短距離の中心選手としての活躍が期待される。(岩本)

女子 4 × 100m リレー

予選 (3 組 2 着 + 2)

3 組 京都大 49.45 6 着

- (1) 森尾美月 (4)
- (2) 齋藤虹香 (2)
- (3) 平岡雪乃 (3)
- (4) 三好紗椰 (4)

女子 4 × 100m リレーには 1 走森尾(4)、2 走齋藤(2)、3 走平岡(3)、4 走三好(4)が出場した。決勝進出の壁が高い中で、1 つ内側のレーンの阪大を意識しながら好タイムを目指した。全員が普段以上の走りを見せ、2 走、3 走間でのバトンミスがあったにも関わらず京大新を達成した。近年の女子の勢いを示すような、更なる記録更新が期待できるレースであった。(田淵)

女子 100mH

予選 (4 組 3 着 + 4)

2 組 平岡雪乃(3)14.80(+1.8) 5 着 q

100mH 予選には平岡(3)が出場した。格上の選手が多い中 1 台目から攻めの走りを見せ、後半やや間延びしたものの、組 5 着

14"80 でゴールし、q により準決勝に進出した。自身が持つ蒼穹記録を 0.3 も更新し、関カレ A 標準および西カレ A 標準を突破するという平岡らしい対校戦強さを証明した。準決勝の走りにも期待したい。(岩崎)

準決勝 (2 組 4 着)

2 組 平岡雪乃(3)15.03(+0.9) 6 着

女子 100H 準決勝

女子 100mH 準決勝には平岡(3)が出場した。持ち前の正確なハードリングでスムーズに加速し、後半も失速することなくまとめたものの、関西トップクラスの選手たちに引き離され 6 着でゴール。決勝進出とはならなかったが、今後の対校戦や京大記録更新に向けて非常に大きな経験となるレースであった。(新庄)



(京大新記録を出した絶好調の平岡)

女子 4 × 400m リレー

予選 (3 組 2 着 + 2)

1 組 京都大 4:03.90 5 着

- (1) 齋藤虹香 (2)
- (2) 小坂みゆ海 (M2)
- (3) 平岡雪乃 (3)
- (4) 中野直子 (3)

女子4×400mRには齋藤(2)、小坂(M2)、平岡(3)、中野(3)が出場した。1走齋藤は個人400mに続いての出場。最外のレーンで自分の走りをして2位が見える位置でバトンを渡した。2走小坂はオープンレーンに6位で入ってからは少しずつ前に離されていく苦しい走りとなった。3走平岡は6位でバトンを受け取るとすぐ5位に追いつき猛然と前を追い上げた。終盤には3位集団まで捉え4走中野に繋いだ。その後4位争いにもつれたが惜しくも敗れ5位となった。(橋本)

～中距離～

男子 800m

予選 (3組2着+2)

- 1組 阿部陽葵 (1) 2:01.94 7着
- 3組 平山悦章 (3) 1:59.01 8着

男子800m予選1組には阿部(1)が出場した。大学初のレースとなったが、1周目は果敢に集団に食らいついた。しかし2周目からは遅れ始め、予選突破とはならなかった。3組には平山(3)が出場した。前半は5番手あたりにつけ、予選突破を十分に期待させる走りであった。しかし600m手前ぐらいから遅れ始め、集団からは大きく離れてゴールし、予選突破はならなかった。両者とも予選突破こそはならなかったが、果敢に先頭に食らいついた経験を今後に生かしてほしい。(服部来)

男子 1500m

予選 (2組4着+4)

- 2組 西川洸平 (3) 4:05.11 10着

予選2組には西川(3)が出場した。レース全体は400mを1分5秒、800mを2分9秒で通過するスローペースで進んでいた。西川は集団後方につけ、そのままラスト1周を迎えた。そこからペースが上がり、集団はばらけた。西川はペースアップに対応し切れず、そのままゴールした。

(奥田)

女子 800m

予選 (4組1着+4)

- 1組 小坂みゆ海 (M2) 2:21.39 7着
- 4組 小倉唯愛 (2) 2:19.71 8着

女子800m予選1組には小坂(M2)が出場した。スタート直後からハイペースの先頭に食らいつく果敢な走りを見せる。1周目を63秒台の高速ラップで通過するも、2周目はその反動で大きくペースを落とし予選突破とはならなかった。4組には小倉(2)が出場した。スタート直後から先頭集団から離れてのレースとなるも、1周目を67秒台と順調なペースで通過した。その後も大きくペースを落とすことはなく、大学ベストの記録でフィニッシュした。両者とも予選突破とはならなかったが、チームを勢いづける素晴らしい走りであった。

(服部来)

女子 1500m

予選 (3組4着+3)

- 2組 小島美月 (M2) 4:34.83 6着 q
- 3組 奥田月菜 (4) 4:50.49 12着
- 濱口姫生 (1) 4:58.68 14着

予選2組には小島(M2)が出場した。小島は序盤集団後方につけて様子を伺っていたが、集団のペースが少し落ちたのを見計らって800m地点あたりで先頭に立ち、レースを作る。残り400m地点で集団のペースが一気に上がり離されかけたものの、粘って6着でゴール。全体15番目で決勝に進出した。

続く3組には奥田(4)、濱口(1)が出場した。2人共集団からは離れ、後方でレースを進めることになる。奥田は終始関西外大の中村につけて良いペースを刻み、終盤はやや苦しそうではあったがしっかりと走り切って大学ベストを更新した。濱口は持ち前の伸びのある走りで、大学初レースにして5分を切るなど実力の片鱗が見られた。今後がとても楽しみな選手である。

(小倉)

決勝

15着 小島美月 (M2) 4:42.52

女子1500m決勝には予選を勝ち抜いた小島(M2)が出場した。レースは東大阪大の窪が飛び出し、残りの選手で集団を形成することとなった。小島は終始集団から5~10mほど離れた最後尾でレースを進めた。1日に2本のレースは体力的にも厳しく、自己ベストからは8秒ほど遅れることとなったが、それでも4分42秒台でまとめ、昨季より大幅に成長した姿を見せた。

(小倉)

~長距離~

男子 5000m

決勝

10着 足立舜 (M2) 14:47.51

11着 鈴木洋太郎 (M2) 14:52.23

男子5000mには足立(M2)、鈴木(M2)が出場した。柴田(M2)は3000mSCに向けて欠場した。レースは序盤から立命館、関大、関学の4選手を中心にハイペースで進み、足立、鈴木は立命館の山崎が引っ張る5位集団でレースを進める形となった。両選手とも前半は集団内で走り、3000m付近でペースを落とした山崎を越して前に出たものの、4000m付近で集団から徐々に遅れ始め、足立10着、鈴木11着に終わった。(斎藤)

男子 10000m

決勝

11着 鈴木洋太郎 (M2) 30:44.49

13着 柴田栗佑 (M2) 30:56.03

男子10000mには柴田(M2)と鈴木(M2)の二名が出場した。スタート直後に関西大学の選手がハイペースで引っ張る展開となり、京大の両選手とも先頭集団に果敢に食らいついた。柴田は序盤で離されてしまったが、鈴木は4000mまでついていく。鈴木は3000mを8'40あたりで通過し5000mを14'52という今期の5000mのシーズンベスト並みの速さで通過。その後は後方の集団に吸収され、しばらくは集団でレースを進めるものの、両選手とも前半のハイペースが原因でラップタイムをなかなかあげることができず、中盤以降はひたすら耐える苦しいレースとなった。全体としてレベ

ルが高く、得点こそならなかった。しかし、柴田はやや脱水になりかけながらも持ち前のラストスパートでしっかりと30分台に食い込んだ。鈴木はレース後も悔しさをにじませていたので京大のエースとして今後の活躍に期待したい。(梅原)

男子 3000mSC

決勝

2着 柴田栗佑 (M2) 8:58.07

3着 足立舜 (M2) 9:11.21

男子 3000mSC には足立(M2)と柴田(M2)が出場した。柴田は序盤から集団の前方でレースを進め、先頭を走る立命館大学の選手を追走した。その差を徐々に詰め、ラスト一周で遂に追い抜かすところまで行ったが最後のホームストレートで再び接戦となり、競り負け惜しくも2位となった。足立は集団の中央付近から徐々に順位を上げ、後半で3位集団の先頭に出た。そのまま後方との差を広げて3位でゴールした。柴田に関しては全カレB標準を突破、足立は前日の5000mの悔しさを晴らす渾身のレースであった。(江端)



(デッドヒートを繰り広げた柴田)

男子 10000mW

決勝

10着 平岡拓 (M2) 48:35.78

12着 尾原翔 (4) 49:31.34

13着 土田浩生 (1) 49:53.00

男子 10000mW には平岡(M2)、尾原(4)、土田(1)が出場した。平岡は、序盤に2回警告が出されたため、守りに入ってしまうリズムにのれなかった。尾原は得点を意識し、最初は集団にくらいついたが、速いペースについていけず、離れてしまった。途中で土田が追いつき、2人でレースをすすめた。土田は、冷静に自分のペースを刻み、見事なレース運びをした。

(石原優)

女子 5000m

決勝

23着 奥田月菜 (4) 17:43.74

29着 小島美月 (M2) 18:13.24

女子 5000m に小島(M2)と奥田(4)が出場した。2人は初日の女子 1500m にも出場している。スタートから列が縦長になる中2人は最後尾付近でレースを進めていく。そのうちに列は前後に分かれ、前の集団は牽制し合ったのか、スローペースで15人程の大集団のまま進んでいきラスト1000m 付近からの勝負になった。小島は中盤、前を追って後方の集団を果敢に抜け出し単独走を選択するも終盤失速してしまった。奥田は後方でおよそ自分のペースを守り、先頭集団での争いにこそ絡めなかったものの見事PBを更新した。(千代田)

～跳躍～

男子走幅跳

決勝

1位 高橋昂生 (2) 7m45(-0.5)

男子走幅跳には高橋(2)が出場した。1本目に7m28を跳び、同率1位になり、2本目には7m36を跳んで記録を伸ばすも2位となった。その後4本目にPBを更新する7m45を跳び、再び1位になるとその後も安定した跳躍を見せ、見事優勝という形で競技を終えた。事前ランキングでは11位だったにもかかわらず優勝した高橋は、間違いなくチームを勢い付けたと言えるだろう。(杉本)

男子三段跳

決勝

13位 梶慎介 (4) 14m45(-1.6)

14位 齋藤啓 (4) 14m43(-0.7)

男子三段跳には梶(4)、齋藤(4)が出場した。梶は風が強く吹いているコンディションに苦戦し、1本目、2本目をフェールしてしまい、後がない中で3本目に足を合わせた。14m45とエイトラインには届かず13位で試技を終えた。シーズンインでPBを更新し、怪我もありながら調子を上げていただけに非常に悔しい結果となった。齋藤は周りの選手が足合わせに苦戦している中で、1本目に14m09、2本目に14m40と確実に記録を残した。3本目に14m43とさらに記録を伸ばしたが、エイトラインには届かず14位で試技を終えた。主将として挑んだ関西インカレで得点をとることを最大目

標としていただけに、非常に悔しい結果となった。(松井)

男子走高跳

決勝

1位 山中駿 (3) 2m21(=NGR)

9位 鴛原泰輝 (4) 1m90

NM 田中颯真 (2)

男子走高跳には鴛原(4)、山中(3)、田中(2)が出場した。田中は春先のケガの影響もあってなかなか調子を上げられず、1m90を3回失敗してNMに終わった。鴛原は春先の不調を脱し、1m90を1回目で成功させた。しかし、1m95をクリアすることができず、悔しい9位となった。山中は2m05から競技を開始し、2m10を1回目で成功して優勝を決めた。その後2m16を挟んで大会新記録の2m21を成功させた。関西学生新となる2m26は失敗したものの、大会新ボーナスを含め13点を京大にもたらず活躍を見せた。(深井)



(大会新を出し圧倒的実力を見せた山中)

男子棒高跳

決勝

NM 黒川泰暉 (M2)

男子棒高跳には、黒川(M2)が出場した、4m20 から競技を開始し、1 本目においては高さは出ていたものの、跳躍の幅が出ずバーを落とした。2 本目はポールが進みが足りず失敗した。3 本目はポールの硬さを下げて臨んだが空中で乱れて失敗した。全体として助走が安定せず、結果は悔しくも NM となった。(深井)

～投擲～

男子砲丸投

決勝

13 位 眞鍋聡志 (M1) 12m15

男子砲丸投には眞鍋(M1)が出場した。5 月前半の練習時に、大腿部を痛め、不安を抱えながら臨む試合となった。一投目は右側に抜けファウル。続く 2 投目、3 投目で記録を残し 12m15 で 13 位となった。怪我再発の不安が残つつも、果敢にグライド投法に挑み、ライバルに挑戦した眞鍋には、ぜひ来年リベンジしてほしい。(新保)

男子円盤投

決勝

16 位 眞鍋聡志 (M1) 33m16

男子円盤投には眞鍋(M1)が出場した。練習を十分に積めていないこともあって、試合前はかなり緊張した様子であった。その為、1 投目は動きが小さくなり円盤を高く上げすぎてしまった。しかし、ここから感覚を取り戻し始めた。実際、2 投目はファウルになったものの、先程より落ち着いてしっかりと投げになっていた。そし

て 3 投目はこの日最も勢いがあったが、惜しくもファウルとなってしまった。しかし、砲丸投との 2 種目出場で疲労が蓄積した中で出来ることをやり切って健闘した。記録は 33m16 であった。(安藤)

女子やり投

決勝

1 位 篠田佳奈 (3) 56m57

女子やり投げには篠田(3)が出場した。事前ランキング 1 位として、2 連覇をかけて挑む試合となった。1 回目から 52m12 の好記録をマークしたが、2 回目 3 回目は奮わず記録が伸びなかった。2 位で 4 回目以降の試技に進み、ベスト 8 までの時間でしっかり動きを修正し、4 回目に見事 56m57 の自己新記録、京大新記録を打ち立てた。5 回目 6 回目は 4 回目の記録を超えることはできなかったものの、54m 超の記録を並べ優勝を飾った。見事二連覇を成し遂げた。次は日本選手権に出場予定である。日本最高の舞台を楽しみつつ、しっかり自分のパフォーマンスを発揮してほしい。(中川遥)



(やり投二連覇を達成した篠田)

女子円盤投

決勝

4位 中芝美玖 (4) 38m88

女子円盤投には中芝(4)が出場した。2本目に38m88を記録し、トップ8に残った。その後記録を伸ばすことはできなかったが、事前ランキングを覆し、最終結果4位で試合を終えた。目標の40mには及ばなかったものの、今シーズンのベストとなる記録であり、今後に期待がかかる。

(五十嵐)

⑤その他ご報告

本年の関西インカレをご観戦いただいたOB,OGの方々の名簿を以下に掲載させていただきます。この度は暑く、遠方の会場にもかかわらずご観戦いただいたこと、まことに感謝申し上げます。並びに、ご足労いただいたにもかかわらずお名前が掲載されていない方につきましては、この場を借りてお詫び申し上げます。

桂総一郎 S51

三好稔彦 S52

染川武博 S45

森本正幸 S41

加藤寿昂 R2

武波夏輝 R3

勝村弘也 S44

中村茂夫 S48

中村鮎夢 R5

谷口博紀 H30

川井拓哉 H30

津野洋 S45

三神淳志 R1

藤原忠義 S41

北村公亮 S55

清水智志 S57

大坂桃子 R5

西川真悠 R4

扇澤剛志 H29

土屋維智彦 R1

西垣里桜 R1

眞野勝文 S53

鯉谷忠夫 S41

川端将貴 R4

清原陸 R5

浅井良 R5

木村佑 R5

小谷哲 R1

小原幹太 R1

内田吉彦 S55

熊谷元 S59

宮下欣二 S51
清水裕美子 R1
山西利和 H30
山口佳那子 R4
備藤翼 H29
池本忠司 S49
沢田和昌 S60

(順不同、敬称略)



発行所:京都大学体育会陸上競技部
編集者:白星祥吾・田中颯真・平松藍(副務)
特別協力:高山兼輔・平林里和子(学連員)
写真担当:川瀬稔己・伊藤寿真・照山潤

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp (白星)